

# 長瀬川の外来魚調査

福島県内水面水産試験場 調査部  
平成16年事業報告

## 1 部門名 水産業－内水面(増養殖)－内水面漁業

分類コード 19-08-22650000

## 2 担当者 佐久間 徹

## 3 要旨

外来魚の生息域が拡大している要因のひとつとして、上流の生息域から下流への流下が考えられる。檜原湖ではコクチバスが平成4年頃に確認され、その後裏磐梯湖沼群に広がり、猪苗代湖でもコクチバスが急増していることから、長瀬川を通じた流下による生息域拡大の可能性について検討した。

檜原湖の狐鷹森水門から小野川湖、小野川水門、秋元水門、さらに下流の酸川合流点前までの長瀬川9地点において、8月中旬から10月上旬に投網、電気ショッカーを用いた捕獲調査を実施し、外来魚の生息状況を調査した。

その結果、コクチバスの生息が8地点で確認された。全長10cm未満の個体が多くみられたが、檜原湖、小野川湖、秋元湖の各水門直下では20cm以上の個体も確認された。また、秋元湖より下流の堰で取水された農業用水路からもコクチバス当歳魚が確認された。

檜原湖、小野川湖、秋元湖の湖内ではコクチバスが再生産しており、稚魚を確認した。長瀬川でコクチバスが再生産できる環境は、檜原湖、小野川湖間にある中瀬沼のみであると考えられ、今回の調査により小野川湖より下流の長瀬川で確認されたコクチバスは、湖からの流下により生息域を拡大したものと考えられた。

長瀬川は酸川が合流して猪苗代湖に注ぐため、強酸性となり魚類にとって厳しい水質環境であるが、酸川合流点の上流で取水された農業用水も猪苗代湖へ注いでいることから、猪苗代湖でのコクチバスの急増も上流の湖沼の影響であると考えられる。

## 4 その他の資料など

なし